



第 233 号 2025 年 10 月発行

ひまわりばたけ

瓢鰻亭 ひまわり書店 みやこ町豊津 326-1 Tel 0930-33-8080



瓢鰻亭は今

毎日30度を超える暑さの中十月を迎えます。

前田 賤

木々に囲まれた瓢鰻亭の昼間は法師ゼミが、夜になると松虫やコオロギそれに名を知らない虫の音がそこいら中から聞こえてきます。彼岸花も赤ばかりではなく白や黄色も咲いています。天然

自然は地球の運行に従っていますのに、地球の上に暮らす人間は暑さの中に涼しさを、寒さの中に温かさを求め、それも自然の力を借りるのではなく自然を壊す力でもってそれを得ようとしているのです。この異常な暑さはその結果とも言えるのではないのでしょうか。さて、絵本の勉強

教科書に載っていた絵本といえば…

▼ランダムに取り上げてみました。ほかにどんな絵本があったでしょうか。思い出をたどってみてください。

- ・スイミー 小さなかしこいさかなのはなし
レオ・レオニー作、谷川俊太郎訳
- ・ふたりはともだち
アーノルド・ローベル作
- ・おおきなかぶ
ロシアの昔話。
- ・ずーっとずっとだいすきだよ
ハンス・ウィルヘルム作
- ・手ぶくろを買いに
新美南吉作
- ・おとなになれなかった弟たちに…
米倉斉加年作
- ・大造じいさんとがん
椋鳩十作
- ・エルマーのぼうけん
ルース・スタイルス・ガネット作
- ・三びきのやぎのがらがらどん
マーシャ・ブラウン作

会再開三度目の九月例会は教員経験者に現職教員二名、読み聞かせ経験二〇年のベテラン加えて飛び入りや子供を加えての楽しい集まりとなりました。テーマは「教科書に採択された絵本や物語」でした。夫々が小学生であった頃、教科書で触れた作品についての思い出や、大人になって単行本となった本に接してあらためて思う事など、お互い

「そうそう、そこが面白かった」「あれは平和授業の一環だった」などと楽しい時間となりました。

今回は絵本でテキストは同じでも絵が違ふと作品の印象が変わることがあるね、ということ詠み継がれている絵本のいくつかを用意することにしました。毎月第三日曜日です。お遊び方々お出で下さい。

一歳児の孫との会話

田島まゆみ

ある日のこと

夕食時、まだ席に座ってないじいじに「じいじ、ちゃんと食べないと大きくならんよー」と孫。

じいじは急いで席に座ろうとする
と、孫はじいじを見上げて「じいじ、もう大きいやん。」

みんなで大笑いしました。

夕方、ひいばあばの家に遊びに行
った孫。

五時のチャイムが鳴り始めたので
出してきたオモチャを片付けて、ひい
ばあばやひいじいじに

「バイバイまた来るねータッチー」
と言ってニコニコ笑顔でタッチ！

お片付けしたアンパンマンカーに
もタッチして駐車場へ…。すると、
一匹のムカデが弱って手が丸まって
いるのを発見した孫。

孫は立ち止まり「ムカデさん、バ
イバイー」

私は咄嗟に「タッチしたらチック

ンするからダメよ！」と言うと「ム
カデさん、手がこうなってるから
(手が丸まっている真似をして)、タッ
チできんねー」と困った顔をしてい
ました。

慌ただしい毎日について忘れがちに
なってるこんな一時。子どもの気持
ちに寄り添い、子どもの目線で会話
するとやさしい気持ちになります
ね。

おまけ

ある日の夕方、帰宅中の出来事。
まだ西日が眩しくて孫は「まぶし

ひまわりイベント 10月、11月

10月

- 8日(水) 行橋市民講座「連歌」13時30分 行橋中央公民館
- 10日(金) 楽しく歌おう 松尾範子教室 10時30分
- 12日(日) 今井祇園連歌百韻張行 8時30分 今井祇園社
- 18日(土) ひまわりこども連歌 17時
- 19日(日) 絵本の勉強会 13時
- 24日(金) 楽しく歌おう 松尾範子教室

11月

- 8日(土) 行橋連歌大会 行橋市今井浄喜寺 8時半開場
- 14日(金) 楽しく歌おう 松尾範子教室 10時30分
- 15日(土) ひまわりこども連歌 17時
- 16日(日) 絵本の勉強会 13時
- 21日(金) 楽しく歌おう 松尾範子教室
- 23日(日) 今井祇園連歌の会月次会 今元公民館 13時から

本とその周辺



い！太陽がずっとついてくるけ。」
私が「太陽は、こうせいが好きな
んやない？」と言うと「ちがう、ちが
う。こうせいはママが好き！」ママに
は勝てません・・・笑

▼川本三郎がその

長い永井荷風への旅の最終章とな
る「荷風と東京」を新潮社から上梓
した。前後2編からなる大部である。
関東大震災以後を昭和ととらえる
川本は断腸亭日常を中心に丹念に
東京を歩く荷風を追いかけている。
微に入り、細に入り描き出される
東京の昭和、「ああそうなんだ」と
何度もうなづいた。

▼つられて、「瀬東奇譚」を取り出
した。岩波文庫版は木村壮八の挿
絵も掲載されていて原著の雰囲気
をよく感じることができる。秋風と
ともに終わる物語、読み終わって嘆
息が出た。読むほうも歳をとったと
いうことだ。